

第三章 飴屋踊り、万作踊りの衣装

本章では、各保存会に所蔵される衣装の一覧表（以下、表1～表6）と各表の作品の中から、特徴的な作品を選び図版で掲載する。紙面の都合上、すべての作品の図版が掲載できないことを、ご了承いただきたい。なお、表内の項目についての詳細は凡例・用語解説（一七～一八頁）を参照されたい。

表1 土橋の万作踊り

調査日…令和五（二〇二三）年一月三〇日

表2 長井町飴屋踊

調査日…令和六（二〇二四）年六月二十九日、六月三〇日、一〇月九日

表3 菊名のあめや踊り

調査日…令和六（二〇二四）年五月十九日、一〇月九日、

表4 小黒万作

調査日…令和五（二〇二三）年八月二三日

表5 下宮田の飴屋踊り

調査日…令和五（二〇二三）年一〇月一七日、令和六（二〇二四）年二月一日、令和七（二〇二五）年二月二一日、

表6 戸川の飴屋踊り

調査日…令和五（二〇二三）年二月二一日

1 土橋の万作踊り

表 1 土橋の万作踊り

調査日：令和 5（2023）年 11 月 30 日

作品 No	調査 No	名称	法量 (cm) 身丈／長さ	法量 (cm) 裾／幅	袷・単	表地	裏地	演目・役	現行	備考
1	1	臍脂地蝶模様着物	156.0	66.0	単	化学繊維	—	「芝山内」 お美代	○	しつけがついたまま。 昭和 48 年頃製作、縫製は手縫い。
2	2	白黒浅黄桃縞模様着物	158.0	67.0	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	「勝五郎箱根山」 初花	—	衣料表示あり、縫製はミシン。 腰上げあり、既製品（タグあり）。
3	3	黄紫縞模様着物	142.0	64.5	単	化学繊維	—	「芝山内」 お美代	—	掛衿（黒）、仕立ては手縫い。 プリント。
4	4	白黒縞模様着物	137.0	65.0	単	化学繊維	—	「大津絵」 与三郎	—	縫製は手縫い、腰上げあり。 右袖にしみあり。 表裏ともに着用跡あり。
5	5	白青五本縞模様着物	140.0	67.0	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	「大津絵」 与三郎	○	縫製はミシン。 既製品（タグあり）。
6	6	薄黄地藤蔦模様着物	125.0	65.0	単	化学繊維	—	手踊り 男物	—	腰上げあり。 全体にしみ。
7	7	黄土地花入亀甲 模様着物	124.0	63.0	単	化学繊維	—	手踊り 男物	—	腰上げあり。 縫製は手縫い。
8	8	白地縞子持吉原 模様着物	137.0	68.0	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	「芝山内」 富三	○	腰上げあり。 既製品（タグあり）。
9	9	黄地井桁崩（絰風） 模様着物	159.0	67.0	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	「芝山内」 お美代	○	腰上げあり。 既製品（タグあり）。
10	10	鼠地縞石畳模様着物	141.0	68.0	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	「勝五郎箱根山」 勝五郎	○	腰上げあり。 既製品（タグあり）。
11	11	赤黑白縞模様着物	159.0	66.0	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	「勝五郎箱根山」 初花	○	掛衿（黒）、腰上げあり。 既製品（タグあり）。
12	12	黒地変石畳模様着物	137.0	64.5	単	化学繊維	—	「大津絵」 与三郎	—	腰上げあり。
13	13	白紺縞三柙模様着物	140.5	67.5	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	「芝山内」 富蔵	○	既製品（タグあり）。 縫製はミシン。
14	14	桃色地亀甲模様着物	149.0	65.0	単	化学繊維	—	手踊り 女物	△	平成 4 年頃製作。 溝の口の亀屋で注文（カタログ注 文、7.8 万円程度か）。 胴裏、袖口に青い裂。 調査 No.27 と合せる。
15	15-1	青地流水桜模様着物	154.0	64.0	単	化学繊維	—	手踊り 女物	○	平成 29 年頃製作。 溝の口の亀屋で注文。 重衿（黄色）。 調査 No.26 と合せる。
16	15-2	半襦袢・裾除け	—	—	単	化学繊維	—	手踊り 女物	○	—
17	16	青地斜流線模様着物	134.0	63.5	単	化学繊維	—	手踊り 男物	—	平成元年頃製作。 昭和 57-58 年の入会者の揃え。
18	17	新橋色地扇模様着物	133.0	65.0	単	化学繊維	—	手踊り 男物	—	腰上げあり。
19	18	青緑地波模様着物	139.0	68.0	単	化学繊維	—	手踊り 男物	○	腰上げあり。胴廻しと袖先裂は山 吹色。既製品。
20	19	白地浴衣 （土橋の文字入り）	156.0	65.5	単	木綿	—	手踊り 男物・女物	○	昭和 48 年頃に使用。
21	20	茶地山道模様細帯	390.0	9.5	—	化学繊維	—	—	△	—
22	21	博多献上帯（白）	488.0	30.5	—	化学繊維	—	「芝山内」 お美代	○	—
23	22	博多献上半幅帯（白）	382.0	9.0	—	化学繊維	—	「大津絵」 与三郎	○	伸縮性のある帯。
24	23-1	黒地ひよっこおかめ面 金襴細帯	356.0	11.5	—	化学繊維	—	「芝山内」 富蔵	△	—
25	23-2	黒地麒麟金襴細帯	356.0	11.5	—	化学繊維	—	「芝山内」 富蔵	△	—
26	24-1	黒地流水桜模様半幅帯	348.0	15.0	—	化学繊維	—	手踊り 女物	○	—
27	24-2	昼夜帯（染分流水桜 模様／紫地独鈷藤模様）	348.0	15.0	—	化学繊維	—	手踊り 女物	○	—
28	25-1	紺地紗綾型模様細帯	374.0	7.0	—	木綿	—	手踊り 男物	○	浴衣用。
29	25-2	白地亀甲模様細帯	354.0	11.0	—	化学繊維	—	—	○	浴衣用。
30	26	白地麻の葉名古屋帯	284.0	30.0	単	化学繊維か	—	「箱根山」 初花	○	—
31	27	昼夜帯（博多献上（白） ／白紫縞模様）	496.0	30.7	袷	化学繊維か	化学繊維か	「芝山内」 富蔵	○	—



作品 No. 2 白黒浅黄桃縞模様着物（表面）



作品 No. 1 臙脂地蝶模様着物（表面）



作品 No. 4 白黒縞模様着物（表面）



作品 No. 3 黄紫縞模様着物（表面）



作品 No. 6 薄黄地藤蔦模様着物（表面）



作品 No. 5 白青五本縞模様着物（表面）



作品 No. 7 黄土地花入亀甲模様着物（表面）



作品 No. 6 薄黄地藤蔦模様着物（背面）



作品 No. 8 白地縞子持吉原模様着物（背面）



作品 No. 7 黄土地花入亀甲模様着物（背面）



作品 No. 10 鼠地縞石畳模様着物（背面）



作品 No. 9 黄地井桁崩（絢風）模様着物（背面）



作品 No. 12 黒地変石畳模様着物（表面）



作品 No. 11 赤黑白縞模様着物（表面）



作品 No. 14 桃色地亀甲模様着物（表面）



作品 No. 13 白紬縞三枳模様着物（表面）



作品 No. 15 青地流水桜模様着物（表面）



作品 No. 14 桃色地亀甲模様着物（背面）



作品 No. 17 青地斜流線模様着物（表面）



作品 No. 15 青地流水桜模様着物（背面）



作品 No. 18 新橋色地扇模様着物（表面）



作品 No. 17 青地斜流線模様着物（背面）



作品 No. 19 青緑地波模様着物（表面）



作品 No. 18 新橋色地扇模様着物（背面）



作品 No. 20 白地浴衣（土橋の文字入り）（表面）



作品 No. 19 青緑地波模様着物（裏面）



作品 No. 21 茶地山道模様細帯



作品 No. 20 白地浴衣（土橋の文字入り）（背面）



作品 No. 24 黒地ひょっとこおかめ面金欄細帯（左）
作品 No. 25 黒地麒麟金欄細帯（右）



作品 No. 22 博多献上帯（白）



作品 No. 28 紺地紗綾型模様細帯（右）
作品 No. 29 白地亀甲模様細帯（左）



作品 No. 26 黒地流水桜模様半幅帯（右）
作品 No. 27 昼夜帯（染分流水桜模様／紫地独鈷藤模様）（左）

2 長井町飴屋踊

表2 長井町飴屋踊

調査日：令和6（2024）年6月29日・30日、10月9日

作品 No	調査 NO	名称	法量（cm） 身丈／長さ	法量（cm） 裾／幅	衿・単	表地（繊維）	裏地（繊維）	演目・役	現行	備考
1	1-1	水色地鶴模様羽織	95.0	75.5	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	三番叟	○	描絵。 袖のところに指がかけられるように ゴムを付けてある。
2	1-2	桃色地花扇鞠模様着物 (半着)	94.0	81.0	単	木綿	—	三番叟	○	肩上げあり。
3	1-4	紫地唐草模様裁付袴	91.0	—	単	木綿	—	三番叟	△	近年はあまり使用しない。
4	1-5	黄色地破立涌三つ巴 模様裁付袴	101.0	—	単	化学繊維 (ポリエステル)	—	三番叟	○	既製品（タグあり）。 横須賀市で購入。
5	1-6	白無地肌着	54.0	62.0	単	木綿	—	三番叟	○	—
6	1-7	白無地飾り帯①②	222.0 (①.②)	7.0 (①.②)	—	—	—	三番叟	○	飾り帯で外側に使い、内側に帯締 めで使う。
7	1-8	烏帽子	—	—	—	—	—	三番叟	○	—
8	1-9	水色地無地袴	85.0	—	単	化学繊維	—	三番叟	—	—
9	2-1	黄緑地二重格子撫子 模様着物	154.0	66.0	単	化学繊維	—	ねんねこ	○	袖は2枚重ねてある。 大人用（重衿＜赤＞）3領の揃え。 子ども用（重衿＜赤地麻の葉模様 ＞）4領の揃え。
10	2-2	黄色地格子結び文模様 着物	157.5	67.0	単	化学繊維	—	ねんねこ	○	子ども用（重衿＜赤地鈴模様＞）、 4領の揃え。 調査No.2－1より1年前くらい に購入。
11	2-3	紫地波扇子模様着物 (長井町飴屋踊りの文 字入り)	138.0	56.0	単	絹	—	ねんねこ	—	横須賀市の指定の際に購入。子ど も用、5領の揃え。 ※個人から未返却のものあり。 大人用の同模様のものは歌の衣装 として使用（調査No.3－1）。
12	2-4	橙色地縞模様振袖	139.0	60.5	単	毛	—	ねんねこ	—	—
13	2-5	赤地流水菊模様振袖	149.0	63.0	衿	化学繊維 (レーヨン)	絹	ねんねこ	—	裾綿入り。袖の長さを調整してい る。肩上げあり。
14	2-6	黄地格子紅梅模様着物	150.0	63.5	衿	化学繊維 (レーヨン)	絹	ねんねこ	—	裾綿入り、袖の長さを振袖のもの で調整している。肩上げあり。
15	2-7	紫地縁麻の葉 模様半幅帯	295.0	14.5	衿	絹 *調査No.2- 3、3-1と共裂	—	ねんねこ	○	縁裂はモスリン。
16	2-8	白地博多献上帯（黒）	353.0	30.0	単	絹	—	ねんねこ	○	大人用の帯。 歌い手の帯にも使用する。
17	2-9	白地博多献上帯 二部式（緑）	—	30.0	単	絹	—	ねんねこ	—	調査No.2－8よりも古い。
18	2-10	昼夜帯 (黄色赤地半幅帯)	345.0	15.0	衿	木綿	木綿	ねんねこ	—	子ども用の帯。 赤・黄色の両面方とも使う。
19	2-11	昼夜帯 (紅地桜模様半幅帯／ 黒地輪宝模様帯)	352.0	15.0	衿	絹・化学繊維 (ポリエステル)	絹	ねんねこ	—	昔のねんねこの帯。 桜の方しか使わない。5筋ある。
20	2-12	肌着（袖なし）	66.0	31.0 (肩幅)	単	木綿	木綿	ねんねこ	○	掛衿（赤）。
21	2-13	前掛け・ほっかむり	—	—	—	—	—	ねんねこ	○	—
22	2-14	おぶい紐（おんぶ紐）	—	—	—	—	—	ねんねこ	○	—
23	3-1	紫地波扇子模様着物 (長井町飴屋踊り文字 入り)	156.0	63.0	単	絹	—	歌い手	○	調査No.2－3の大人用。
24	4-1	黒地流水紅梅模様振袖	152.0	62.5	衿	化学繊維 (レーヨン)	化学繊維	「白樹粉屋」 嫁	○	裾・袖口に綿入り。裏：袖だけ麻 の葉鹿の子模様（化学繊維）がつ いている。調査No.2－6の色違 いの生地。
25	4-2	紺地縞模様襦袍	132.0	67.0	単	木綿	—	「白樹粉屋」 婿	○	—
26	4-3	茶地縞模様着物	111.0	67.0	単	木綿	—	「白樹粉屋」 婿	—	腰上げあり。
27	4-4	薄黄地縞模様襦袍	135.0	56.0	衿	絹	木綿	「白樹粉屋」 婿	—	肩上げあり。
28	4-5	薄黄地縞模様襦袍	129.0	59.5	衿	絹	木綿	白樹粉屋	—	肩上げ・腰上げあり。
29	4-6	染分黒縁麻の葉鹿の子 模様帯	426.0	25.5	—	木綿・化学繊維	—	白樹粉屋・嫁	○	黒部分は木綿。 模様部分は化学繊維。

30	4-7	紺地博多献上細帯 白地博多献上細帯	390.0	9.0	—	木綿	—	「白樹粉屋」 婿	○	白は「三番叟」と兼用。「白松粉屋」 の婿は基本紺を使う。2筋。
31	4-8	黄地飾り帯 青地飾り帯	292.0(黄) 280.0(青)	9.0	—	木綿	—	「白樹粉屋」	○	生地を9センチ幅に畳んで使用。
32	4-9	黄地しごき帯	240.0	8.0	—	化学繊維	—	「白樹粉屋」 婿	○	地模様（花入亀甲鶴模様）生地を 8センチ幅に畳んで使用。
33	4-10	腰巻など	—	—	—	—	—	「白樹粉屋」 嫁	△	—
34	4-11	お嫁さんの 帯揚げ手拭い	—	—	—	—	—	「白樹粉屋」 嫁	△	—
35	5-1	薄茶橙濃茶縞 模様襦袢	125.5	61.0	袷	木綿	木綿	「新川」	○	裏地（黄色無地）。 肩上げ・腰上げあり。
36	5-2	青鼠橙紺縞模様着物	135.0	63.0	単	木綿	—	「新川」	—	6領の揃え。
37	5-3	水色無地半褌袴	56.0	64.0	単	木綿・衿 (化学繊維)	—	「新川」	○	掛衿（黒）。
38	5-4	水色無地半褌袴	60.0	63.0	単	木綿	—	「新川」	○	掛衿（黒）。新しく製作。 調査 No.5-3と同じ。
39	5-5	ズボン	—	—	—	—	—	「新川」	○	—
40	6-1	水色無地着物	122.0	63.0	単	木綿	—	「笠松峠」 仙太郎	—	腰上げあり。
41	6-2	緑赤茶格子模様着物	109.0	55.0	単	木綿	—	「笠松峠」 仙太郎	—	肩上げ・腰上げあり。
42	6-3	茶地細縞模様着物	131.0	64.0	袷	絹	木綿	「笠松峠」 仙太郎	—	—
43	6-4	黒地紋付羽織 (羽織裏：松葉に鼓)	89.0	66.5	袷	化学繊維	化学繊維	—	—	再利用品か？ 丸に平四つ目紋あり。
44	6-5	染分菊紅葉模様振袖	145.0 (衦 1.0)	64.0	袷	化学繊維 (レーヨン)	木綿	—	—	袖口に調査 No.2-5 の生地を使用。
45	6-6	白無地着物	117.0	64.0	単	木綿	木綿	「笠松峠」 お松	—	—
46	6-7	紫地横縞梅模様振袖	137.0	64.0	単	木綿	—	—	—	袖口に調査 No.2-6 の生地を使用。
47	6-8	紫地紗模様袴	64.0・ 85.0 (袴)	33.0 (肩幅)	単	木綿	—	—	—	—
48	6-9	紺地縞模様裁付袴	74.0	—	単	木綿	—	「笠松峠」 仙太郎	—	平成 22 年に購入。
49	6-10	手足 脚絆	—	—	—	—	—	笠松峠	—	—
50	6-11	手甲 脚絆	—	—	—	—	—	笠松峠	—	—
51	6-12	羽織紐	—	—	—	—	—	笠松峠	—	—
52	7-1	茶無地着物	122.0	64.0	単	木綿	—	「日蓮経」 与一兵衛	—	—
53	7-2	黒無地着物	123.0	66.0	単	木綿	—	「日蓮経」 定九郎	—	紋の辺りに紙紋を張り付けた後あり。
54	7-3	赤地桜前掛	—	—	—	—	—	「日蓮経」 定九郎	—	—
55	7-4	手甲 脚絆	—	—	—	—	—	「日蓮経」 定九郎	—	—
56	8-1	浅黄無地着物	123.0	64.0	単	木綿	—	細田	—	腰上げあり。
57	8-2	黒無地羽織	82.0	66.0	単	化学繊維	—	「細田」 和尚	—	—
58	8-3	白無地着物	130.0	68.0	単	木綿	—	「細田」 和尚	—	和尚さんが中に着るもの。
59	8-4	染分菊模様振袖	144.5 (1.5 衦)	64.0	袷	化学繊維 (レーヨン)	木綿	「細田」 娘	—	—
60	8-5	白無地着物	129.0	65.0	単	木綿	—	「細田」 娘	—	—
61	8-6	黄土色無地袷袢・ 白地小花模様掛絡	—	—	—	—	—	「細田」 和尚	—	—
62	9-1	不明 小物	—	—	—	—	—	—	—	—
63	9-2	足袋	—	—	—	—	—	—	—	—
64	番号 なし	青白地横縞矢羽 模様羽織	65.0	63.0	単	絹	—	不明	—	2 領の揃え。
65	番号 なし	茶地唐獅子模様羽織	63.0	61.0	単	絹	—	不明	—	—

※調査番号 1 - 3 は欠番



作品 No. 1 水色地鶴模様羽織（背面）



作品 No. 1 水色地鶴模様羽織（表面）



作品 No. 3 紫地唐草模様裁付袴（表面）



作品 No. 2 桃色地花扇鞠模様着物（半着）（表面）



作品 No. 9 黄緑地二重格子撫子模様着物（表面）



作品 No. 4 黄色地破立涌三つ巴模様裁付袴（表面）



作品 No. 12 橙色地縞模様振袖（表面）



作品 No. 10 黄色地格子結び文模様着物（表面）



作品 No. 14 黄地格子紅梅模様着物（表面）



作品 No. 13 赤地流水菊模様振袖（表面）



作品 No. 24 黒地流水紅梅模様振袖（表面）



作品 No. 15 紫地縁麻の葉模様半幅帯



作品 No. 26 茶地縞模様着物（表面）



作品 No. 25 紺地縞模様襦袍（表面）



作品 No. 35 薄茶橙濃茶縞模様襦袍（表面）



作品 No. 27 薄黄地縞模様襦袍（表面）



作品 No. 37 水色無地半襦袢（表面）



作品 No. 36 青鼠橙紺縞模様着物（表面）



作品 No. 41 緑赤茶格子模様着物（表面）



作品 No. 40 水色無地着物（表面）



作品 No. 43 黒地紋付羽織（羽織裏：松葉に鼓）（表面）



作品 No. 42 茶地細縞模様着物（表面）



作品 No. 44 染分菊紅葉模様振袖（背面）



作品 No. 43 黒地紋付羽織（羽織裏：松葉に鼓）（背面）



作品 No. 52 茶無地着物（表面）



作品 No. 48 紺地縞模様裁付袴（表面）



作品 No. 54 赤地桜前掛（表面）



作品 No. 53 黒無地着物（表面）



作品 No. 57 黒無地羽織（表面）



作品 No. 56 浅黄無地着物（表面）



作品 No. 61 黄土色無地袷袢・白地小花模様掛絡（表面）



作品 No. 59 染分菊模様振袖（表面）

3 菊名のあめや踊り

表3 菊名のあめや踊り

調査日：令和6（2024）年5月19日、10月9日

作品 No	調査 No	名称	法量（cm） 身丈／長さ	法量（cm） 拵／幅	袷・単	表地	裏地	演目・役	現行	備考
1	1-1	染分地斜立涌菊模様振袖	145.0	68.0	袷	木綿	木綿	「白松粉屋」 女	○	右前に付裂あり。型友禪。
2	1-2	鳥の子地緋朝顔 模様半襦袢	77.0	65.0	単	木綿 袖は化学繊維か	—	「白松粉屋」 女	○	身頃のみ木綿。 掛衿（黄緑）。
3	1-3	腰巻	—	—	—	木綿	—	「白松粉屋」 女	○	—
4	1-4	紅地扇面花しごき帯	—	—	—	絹	—	「白松粉屋」 女	○	しごきをたすきとして使用。
5	1-5	薄黄地鶴青海波しごき 帯	—	—	—	絹	—	「白松粉屋」 女	○	しごきをたすきとして使用。
6	1-6	赤水色地麻の葉斜縞模 様帯	360.0	30.0	—	化学繊維	—	「白松粉屋」 女	○	—
7	2-1	黒黄地格子模様着物	125.0	64.0	袷	木綿	木綿	「白松粉屋」 男	○	身八つ口なし。
8	2-2	水色無地半襦袢	55.0	62.0	単	木綿	木綿	「白松粉屋」 男	○	掛衿（水色）。
9	2-3	白地豆紋模様手拭い	—	—	—	木綿	—	「白松粉屋」 男	○	ねじり鉢巻に使用。
10	2-4	紫無地マエゴ（前掛）	—	—	—	化学繊維	—	「白松粉屋」 男	○	—
11	2-5	白茶色無地男帯	372.0	10.5	—	木綿	—	「白松粉屋」 男	○	表地：紫色無地。
12	2-6	紺地博多帯	376.0	9.0	—	絹	—	「白松粉屋」 男	○	—
13	3-1	茶太縞模様着物	104.0	62.0	袷	絹か	絹	「白松粉屋」 男（子ども）	△	中に着るものは「白松粉屋」（男） と兼用。重衿（水色）。
14	4-1	紅地藤模様振袖	140.5	64.5	—	化学繊維	胴裏のみ 化学繊維	「白松粉屋」 女（子ども）	△	袖口、振りに紫地牡丹模様。 購入は10年前（2014年）。 「子守」（子ども）にも用いる。
15	4-2	白無地半襦袢（袖なし）	47.0	31.0	単	木綿	—	「白松粉屋」 女（子ども）	△	掛衿（黄緑）。
16	5-1	薄茶地菊模様着物	129.0	67.0	袷	木綿	木綿ほか	「笠松峠」 仙太郎	○	裏地は数種の生地を縫い合わせ。 裏に「君島拾五郎母ヨリ」と墨書 あり。
17	5-2	黒無地羽織	89.0	66.0	袷	絹	絹	「笠松峠」 仙太郎	○	変わり三つ山（貼り紋）あり。 羽織紐付き。 裏地は提灯踊り模様。
18	5-3	白無地半襦袢	81.0	60.0	単	木綿	—	「笠松峠」 仙太郎	○	袖だけ化学繊維。
19	6-1	黒地亀甲十字緋 模様着物	139.0	65.0	袷	木綿	木綿	「笠松峠」 お松	○	—
20	6-2	紫地破れ紗綾形花 模様帯	370.0	30.0	—	木綿 *調査No.6-3 と共裂	—	「笠松峠」 お松	○	—
21	6-3	紫地破れ紗綾形花 模様帯	—	—	—	木綿 *調査No.6-2 と共裂	—	「笠松峠」 お松	○	—
22	6-4	紅無地裾よけ	—	—	—	木綿	—	「笠松峠」 お松	○	—
23	6-5	薄紅地菊模様半襦袢	75.0	70.0	単	木綿	—	「笠松峠」 お松	○	身頃は別裂（紅地麻の葉模様）。 掛衿（赤）。
24	7-1	白茶地変麻の葉 模様着物（半着）	—	—	単	化学繊維	—	「笠松峠」 仙太郎（子ども）	○	仙太郎役が途中で交代できるよう、 同じものを対で用意している。
25	7-2	白無地半襦袢（袖なし）	—	—	単	木綿	—	「笠松峠」 仙太郎（子ども）	○	掛衿（白繪子）。
26	7-3	白無地半襦袢	55.0	62.0	単	木綿・化学繊維	—	「笠松峠」 仙太郎（子ども）	○	肌抜きしないため袖付き。 掛衿（白繪子）。
27	8-1	臙脂地花入立涌色紙 模様半襦袢	72.0	67.0	単	木綿	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	掛衿（黒天鷲絨）。身頃は別裂（白 地十字緋模様）。
28	8-2	青地千鳥唐草 模様半襦袢	69.0	68.0	単	木綿	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	身頃は別裂（茶地杜若観世水模 様）。掛衿（黒天鷲絨）。
29	8-3	白薄紫地手毬紅葉 模様半襦袢	79.0	64.5	袷	木綿ほか	木綿	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	身頃の一部分が別裂（紅地花唐草 鶴丸模様）。
30	8-4	紅地牡丹模様半襦袢	73.0	59.0	単	木綿	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	身頃は別裂（紅地鹿の子変麻の葉 模様）。背守りのようなものがつい ている。掛衿（赤鹿の子）。
31	8-5	桃色地百合蝶 模様半襦袢	72.0	57.0	単	木綿	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	身頃は別裂（薄紅地無地）。 肩上げあり。掛衿（赤）。
32	8-6	白地亀甲繁麻の葉文様 半襦袢	64.0	68.0	単	化学繊維	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	身頃は別裂（臙脂無地）。 掛衿（鼠）。
33	8-7	紅地花鹿の子 模様半襦袢	65.0	55.0	単	木綿	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	身頃は別裂（橙色無地）。 掛衿（黒）。肩上げあり。

34	8-8	桃色地変花立涌 模様半襦袢	75.0	52.0	単	化学繊維	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	掛衿（赤）。
35	8-9	白茶地松竹梅小紋 模様半襦袢	74.0	64.0	単	木綿	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	身頃は別裂（薄紅無地）。掛衿（黒） 袖はあとで付け替え。
36	8-10	黒地半襦袢	74.0	68.0	単	毛	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	見頃は別裂（白茶鼠格子模様）。 掛衿（黒）肩上げあり。袖には裏 あり（茶地横縞冊子模様）。
37	8-11	濃茶地数珠繫 模様帯（太）	258.0	8.0	—	—	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	4 筋の揃え。
38	8-12	濃茶地数珠繫 模様帯（細）	114.0	4.5	—	—	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	5 筋の揃え。
39	8-13	赤茶地数珠繫 模様帯（太）	260.0	7.5	—	—	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	—
40	8-14	薄茶地数珠繫 模様帯（細）	148.0	6.0	—	—	—	「笠松峠」 お松手下（子ども）	○	3 筋の揃え。
41	9-1	紺地波模様着物	134.0 /118.0	65.0/ 64.0	単	化学繊維	—	「新川」 （子ども） 「かきから」 （子ども）	○	中サイズ 1 領、小サイズ 2 領揃え。 腰上げ、肩上げあり。 2 反から 3 領サイズ違いを製作。 袖だけ衿。
42	10-1	赤地藤模様振袖（半着）	—	—	単	毛	—	「子守」 （子ども）	○	裾上げをしている。 調査 No.4-1 の半着。
43	10-2	桃色地藤模様振袖 （半着）	74.0	56.0	単	毛	—	「子守」 （子ども）	○	肩上げ、腰上げ、裾上げあり。
44	10-3	赤地蝶模様振袖（半着）	90.0	62.0	単	毛	—	「子守」 （子ども）	○	異なる反物を組み合わせて製作。 No.10-1、10-2 より小さい子が 着用。 3 領の揃え。
45	10-4	白地襦袢（袖なし）	49.0		単	木綿	—	「子守」 （子ども）	○	掛衿（黄色地花模様）
46	10-5	手拭い	—	—	—	木綿	—	「子守」 （子ども）	○	4 点。
47	10-6	黄緑地折鶴花模様帯	97.0	17.5	—	木綿	—	「子守」 （子ども）	○	4 筋の揃え。腰板あり。
48	10-7	萌黄色鶴花入亀甲模様 おふい紐（おんぶ紐）	—	—	—	絹	—	「子守」 （子ども）	○	人形を背負うときに使用。
49	10-8	黄色地しごき帯	—	—	—	絹	—	「子守」 （子ども）	○	—
50	10-9	裾よけ	—	—	—	木綿・化学繊維	—	「子守」 （子ども）	○	調査 No.10-2 に使用。
51	11-1	薄茶地花入菱繫 模様着物	128.0	60.0	袷	木綿	木綿	「五段目」 弥五郎・勘平	○	血のりの汚れ、破れあり。 裏に文字模様を使用。
52	11-2	黒無地羽織	88.0	67.0	袷	絹	絹	「五段目」 弥五郎	○	羽織裏（薄茶地色紙散模様）。 羽織紐付き、腰上げあり。 丸に三つ引き紋。
53	11-3	薄茶地鱗 模様着物（半着）	79.0	67.0	袷	化学繊維	化学繊維	「五段目」 弥五郎	○	子ども・大人両方に使用。
54	11-4	黒無地羽織	79.0	61.0	袷	化学繊維	化学繊維	「五段目」 弥五郎（子ども）	○	袖だけ単仕立て。
55	11-5	白地博多帯	420.0	14.8	—	絹	—	「五段目」 弥五郎	○	—
56	12-1	薄茶地変菱繫縹模様襦 袢	129.0	69.0	袷	ポリエステル	木綿	「五段目」 勘平	○	掛衿（黒天鷲絨）。 帯は自前か博多帯を転用。
57	13-1	茶無地着物	126.0	64.0	袷	木綿	木綿	「五段目」 与市兵衛	○	—
58	13-2	白無地半襦袢	72.0	60.0	単	木綿	—	「五段目」 与市兵衛	○	肩上げ、衿あて。
59	14-1	紺無地襦袢	125.0	66.0	袷	木綿	木綿	「五段目」 定九郎	○	血のりの跡（裏）。
60	14-2	黒無地天鷲絨帯	308.0	16.5	—	絹（天鷲絨）	—	「五段目」 定九郎	○	12 筋の揃え。
61	15-1	黄土色パーカー	—	—	—	木綿	—	「五段目」 猪	○	M サイズ。
62	16-1	青地波模様着物	143.0	70.0	単	化学繊維	—	「新川」	○	袖だけ裏地あり、3 領の揃え。
63	17-1	紺地丸に絞模様着物	137.0	62.0	単	レーヨン	—	「かきから」	○	子どもも使用、2 領の揃え。
64	17-2	白地蝶模様着物	126.0	60.0	単	毛	—	「かきから」	○	子どもも使用。
65	18-1	白地梅枝鶏模様着物	130.0	66.0	単	毛	—	「細田」 奴	○	袖丈を短くしている。
66	19-1	染分菊牡丹模様振袖	141.0	66.0	袷	木綿	木綿	「細田」 娘	○	—

67	19-2	薄桃地半襦袢（振袖）	63.0	62.0	単	レーヨン	—	「細田」 娘	○	袖は別裂（白地）。 掛衿（赤）。
68	19-3	染分青海波立涌菊 模様帯	372.0	30.0	—	化学繊維	—	「細田」 娘	○	—
69	20-1	白無地着物	125.0	64.0	単	木綿	—	「細田」 和尚	○	2 領の揃え。
70	20-2	白地半襦袢	60.0	64.0	単	木綿	—	「細田」 和尚	○	—
71	21-1	桃色地菊紅葉鼓 模様振袖	142.5	68.0	袷	毛	木綿	「子守」	○	3 領の揃え。
72	21-2	赤色地檜扇牡丹 模様振袖	142.5	68.0	袷	毛	木綿	「子守」	○	—
73	21-3	紅地菊紅葉 模様半襦袢	58.0	62.0	単	毛	—	「子守」	○	身頃は別裂（白無地）。掛衿（赤 鹿の子）。
74	21-4	赤地観世水葵 模様半襦袢	82.0	68.0	単	毛	—	「子守」	○	身頃は別裂（赤地薔薇模様）。掛 衿（赤鹿の子）。3領の揃え。
75	21-5	昼夜帯 （鶯色無地帯／橙地格 子破七宝丸に冊子模 様）	330.0	30.0	袷	模様／化学繊維 無地／絹	—	「子守」	○	—
76	21-6	昼夜帯 （茶地格子子コブト菱繫模 様帯／白地横縞花の丸 模様帯）	362.0	30.0	—	茶格子／木綿 白地／絹	—	「子守」	○	—
77	21-7	赤地変縞模様帯	472.0	32.5	—	化学繊維	木綿	「子守」	○	裏は赤無地。
78	22-1	黄色地椿模様着物	158.0	64.0	袷	化学繊維	化学繊維	—	—	肩上げ、腰上げあり。 4領の揃え。子守や白松粉屋での 着用を想定したもの。
79	22-2	青地吉原繫模様 あめや踊り保存会法被	—	—	単	木綿	—	—	○	背に菊に「名」の染めあり。 本番当日に保存会員が着用。 3領は返却されたもの。 そのほか個人所有のものあり。
80	23-1	黒黄格子模様緋襦袢	127.5	66.0	袷	木綿	木綿	—	—	段物の男形が着用する。
81	23-2	染分松竹梅丸模様振袖	139.0	66.5	袷	木綿	木綿	—	—	段物の女形が着用する。
82	23-3	茶地矢絰襦袢	127.0	64.0	袷	木綿	木綿	「五段目」 勘平	—	裏地は茶格子。 掛衿（黒）。
83	23-4	白地半襦袢	76.0	65.5	単	木綿	—	「細田」 和尚	—	汚れあり。
84	23-5	紺地三つ巴模様法被	—	—	単	木綿	—	—	—	背に「祭」の字模様あり。 来歴不明。
85	23-6	茶地博多帯	380.0	9.3	輪	絹	—	「笠松峠」 仙太郎（子ども）	△	3筋の揃え。裁付袴の土台に使用。 仙太郎の役の着装補正に使用。
86	24-1	肩衣	—	—	—	麻	—	—	—	六曜紋あり。
87	25-1	白茶地モザイク模様裁 付袴	120.0	—	—	木綿	—	「笠松峠」 仙太郎	—	—
88	25-2	黄土色地市松裁付袴	116.0	—	—	絹	—	「笠松峠」 仙太郎（子ども）	—	後ろが長い形状が特徴。
89	25-3	薄茶地楊柳模様裁付袴	120.0	—	—	ナイロンか	—	「笠松峠」 仙太郎（子ども）	—	—
90	25-4	青地小紋短冊模様裁付 袴	125.0	—	—	木綿	—	「五段目」 弥五郎	—	8 年ほど前に 浅草で既製品を購入。
91	25-5	茶地縞模様袴	98.0	—	—	絹	絹	「五段目」 弥五郎	—	—
92	26-1	与市兵衛セット 手甲、 脚絆、弁当包、帯	—	—	—	木綿	—	「五段目」 与市兵衛	○	—
93	26-2	細田和尚セット 手甲、 半肌引。ふんどし、わ らじ、掛絡、玉、脚絆、 頭巾	—	—	—	木綿	—	「細田」 和尚	○	—
94	26-3	白地黒縁変菱模様帯	360.0	23.5	—	絹	—	「笠松峠」 お松	—	寄付されたもので 役は決まっていない。
95	26-4	紅地麻の葉模様帯	356.0	22.5	—	絹	—	「笠松峠」 お松	—	寄付されたもので 役は決まっていない。
96	26-5	赤地マエゴ（前掛）	縦 53.0	横 66.0	—	化学繊維	—	「五段目」 定九郎	○	ほか3点 53×66 45×76 31 × 55。
97	26-6	しごき帯／へこ帯等	—	—	—	—	—	—	△	28 点。



作品 No. 7 黒黄地格子模様着物（表面）



作品 No. 1 染分地斜立涌菊模様振袖（背面）



作品 No. 14 紅地藤模様振袖（表面）



作品 No. 13 茶太縞模様着物（表面）



作品 No. 16 薄茶地菊模様着物（裏地）



作品 No. 16 薄茶地菊模様着物（表面）



作品 No. 19 黒地亀甲十字縞模様着物（表面）



作品 No. 17 黒無地羽織（表面）



作品 No. 24 白茶地変麻の葉模様着物（半着）（背面）



作品 No. 23 薄紅地菊模様半襦袢（表面）



作品 No. 28 青地千鳥唐草模様半襦袢（表面）



作品 No. 27 臙脂地花入立涌色紙模様半襦袢（表面）



作品 No. 30 紅地牡丹模様半襦袢（表面）



作品 No. 29 白薄紫地手毬紅葉模様半襦袢（表面）



作品 No. 33 紅地花鹿の子模様半襦袢（表面）



作品 No. 31 桃色地百合蝶模様半襦袢（表面）



作品 No. 35 白茶地松竹梅小紋模様半襦袢（表面）



作品 No. 34 桃色地変花立涌模様半襦袢（表面）



作品 No. 41 紺地波模様着物（背面）



作品 No. 36 黒地半襦袢（表面）



作品 No. 43 桃色地藤模様振袖（半着）（背面）



作品 No. 42 赤地藤模様振袖（半着）（表面）



作品 No. 51 薄茶地花入菱繫模様着物（表面）



作品 No. 44 赤地蝶模様振袖（半着）（表面）



作品 No. 53 薄茶地鱗模様着物（半着）（表面）



作品 No. 52 黒無地羽織（表面）



作品 No. 57 茶無地着物（表面）



作品 No. 56 鶯茶地変菱繋ぎ緋模様襦袍（表面）



作品 No. 59 紺無地襦袍（表面）



作品 No. 58 白無地半襦袢（表面）



作品 No. 62 青地波模様着物（表面）



作品 No. 61 黄土色パーカー（表面）



作品 No. 64 白地蝶模様着物（表面）



作品 No. 63 紺地丸に紋模様着物（表面）



作品 No. 66 染分菊牡丹模様振袖（表面）



作品 No. 65 白地梅枝鶏模様着物（表面）



作品 No. 72 赤色地檜扇牡丹模様振袖（表面）



作品 No. 71 桃色地菊紅葉鼓模様振袖（背面）



作品 No. 74 赤地観世水葵模様半襦袢（表面）



作品 No. 72 赤色地檜扇牡丹模様振袖（背面）



作品 No. 79 青地吉原繫模様あめや踊り保存会法被（表面）



作品 No. 78 黄色地椿模様着物（背面）



作品 No. 80 黒黄格子模様絣襦袢（表面）



作品 No. 79 青地吉原繫模様あめや踊り保存会法被（背面）



作品 No. 82 茶地矢絣襦袢（表面）



作品 No. 81 染分松竹梅丸模様振袖（表面）



作品 No. 84 紺地三つ巴模様法被（背面）



作品 No. 84 紺地三つ巴模様法被（表面）

4 小黒万作

表 4 小黒万作

調査日：令和 5（2023）年 8 月 23 日

作品 No	調査 No	名称	法量 (cm) 身丈／長さ	法量 (cm) 桁／幅	袷・単	表地	裏地	備考
1	1	浅黄地鶴松梅牡丹模様振袖	152.5 (衽 5.5)	62.0 (衽 1.0)	袷	絹 (縮緬)	絹 (平絹)	友禅・描絵・刺繍あり。綿入れ。 違い矢羽根紋あり。
2	2	紺茶縞模様着物	138.0	66.0 (衽 0.5)	袷	木綿	木綿	しつけあり。掛襟（黒）。 リバーシブル。 裏地：紫地着物（石餅紋あり）
3	3	赤地秋草垣模様振袖	157.5 (衽 4.5)	66.0 (衽 0.5)	袷	木綿	木綿	リバーシブル。 裏地：石餅紋あり 型友禅（型 45 cm）。
4	4	裂縫合せ半襦袢	57.0	59.5	袷	木綿	木綿	掛襟（楓鹿の子模様）。 様々な裂が使用されている。
5	5	紫地薦模様振袖	157.5 (衽 5.0)	66.3 (衽 0.3)	袷	木綿	木綿	表：型友禅（型 30 cm）。 裏：紫地沢瀉模様。
6	6	黒無地三つ紋着物	124.0 (衽 1.0)	63.5 (衽 0.5)	袷	木綿	木綿	裏に血のりが付着している。 石餅紋あり。
7	7	薄黄地太二つ引き模様半纏	78.0	62.5 (衽 2.5)	袷	木綿	木綿	綿入れ。
8	8	茶萌黄格子模様着物	142.0 (衽 3.0)	65.5 (衽 0.5)	袷	木綿	木綿	リバーシブル。 裏地：変武田菱紋あり。
9	9	紺赤地縞模様襦袢	135.0 (衽 2.5)	66.5 (衽 2.0)	袷	木綿	木綿	袖口・裾のみに綿、広袖。
10	10	黒無地三つ紋着物	142.0 (衽 1.0)	66.0 (衽 0.5)	袷	木綿	木綿	調査 No.6 のツレか。 石餅紋あり。
11	11	茶格子模様襦袢	137.0 (衽 2.0)	65.5 (衽 1.0)	袷	木綿	木綿	広袖。
12	12	紺地浅黄紫格子模様襦袢	134.0 (衽 4.0)	66.0 (衽 2.5)	袷	木綿	木綿	袖口裂は毛織物を使用。
13	13	紅地斜縞牡丹梅模様振袖	162.0 (衽 7.0)	64.0 (衽 1.0)	袷	木綿	木綿	身頃・袖が別裂。型友禅（型 40 cm）。 飛翼仕立て、裾部分も飛翼。
14	14	紺無地三つ紋着物	142.5 (衽 2.5)	66.2 (衽 0.2)	袷	木綿	木綿	リバーシブル。 裏地：茶無地。 石餅紋あり。
15	15	白地松竹梅模様羽織	102.0	72.0	単	木綿	—	描絵。「三番叟」に用いたか。
16	16-1	浅黄小紋袴 肩衣	68.0	—	単	絹（平絹）	—	墨書「小川藤吉之寄付」あり。 丸に吉の字紋あり。
17	16-2	浅黄小紋袴 袴	82.0	—	単	絹（平絹）	—	墨書「下澁谷羽根澤小川藤吉之寄付」あり。
18	17-1	浅黄無地袴 肩衣	71.5	—	単	木綿	—	肩の芯は針金・英字新聞で裏を補強。 丸に違い鷹羽紋あり。
19	17-2	浅黄無地袴 袴	175.0	—	単	木綿	—	—
20	18-1	浅黄無地袴 肩衣	72.0	—	単	木綿	—	丸に蛇の目三つ盛紋あり。
21	18-2	浅黄無地袴 袴	223.5	—	単	木綿	—	肩の芯は針金・英字新聞で裏を補強。 丸に蛇の目三つ盛紋あり。
22	19	紺無地素襖（掛素襖）	76.0	79.0	単	木綿	—	—
23	20	紺地変紗綾形模様浴衣	136.0	66.5	単	木綿	—	「浮島」の衣装。 昭和 60 年横浜市民俗芸能大会に合わせて新調。
24	21	紺地緋模様浴衣	140.0	65.0	単	木綿	—	調査 No.20 と一緒に保管。
25	22	茶萌黄檜垣模様括袴	115.0	—	単	木綿	—	—
26	23	茶格子模様袴	113.0	—	単	木綿 *調査 No.8 と 共裂	—	—
27	24	青地扇面藤桜模様帯	374.0	30.0	袷	木綿	絹（縹子）	表：型友禅（型 38 cm）。 裏：紫地扇面菊桔梗模様。
28	25	黒地へこ帯	324.0	69.0	単	ナイロン	—	絞り。
29	26	黒地桐模様素襖（掛素襖）	75.0	96.5	単	木綿	—	—



作品 No. 2 紺茶縞模様着物（表面）



作品 No. 1 浅黄地鶴松梅牡丹模様振袖（表面）



作品 No. 3 赤地秋草垣模様振袖（表面）



作品 No. 2 紺茶縞模様着物（裏地）



作品 No. 4 裂縫合せ半襦袢（表面）



作品 No. 3 赤地秋草垣模様振袖（裏地）



作品 No. 6 黒無地三つ紋着物（背面）



作品 No. 5 紫地鳶模様振袖（表面）



作品 No. 8 茶萌黄格子模様着物（表面）



作品 No. 7 薄黄地太二つ引き模様半纏（表面）



作品 No. 9 紺赤地縞模様襦袍（表面）



作品 No. 8 茶萌黄格子模様着物（裏地）



作品 No. 12 紺地浅黄紫格子模様襦袍（表面）



作品 No. 11 茶格子模様襦袍（表面）



作品 No. 14 紺無地三つ紋着物（背面）



作品 No. 13 紅地斜縞牡丹梅模様振袖（表面）



作品 No. 15 白地松竹梅模様羽織（表面）



作品 No. 14 紺無地三つ紋着物（裏地）



作品 No. 16, 17 浅黄小紋袴（セット）



作品 No. 15 白地松竹梅模様羽織（背面）



作品 No. 22 紺無地素襦（掛素襦）（表面）



作品 No. 18, 19 浅黄無地袴（セット）



作品 No. 29 黒地桐模様素襦（掛素襦）（表面）



作品 No. 25 茶萌黄檜垣模様括袴（表面）

5 下宮田の飴屋踊り

表5 下宮田の飴屋踊り 調査日：令和5（2023）年10月17日、令和6（2024）年12月11日、令和7（2025）年2月21日

作品 No	調査 No	名称	法量 (cm) 身丈／長さ	法量 (cm) 衿／幅	衿・単	表地（繊維）	裏地（繊維）	備考
1	1	海松色小桜模様着物	133.0 (衿 3.0)	63.0	衿	木綿 *調査 No.16 と共裂	木綿	袖裏地は赤。
2	2	黄紫地格子模様裂	257.5	35.0	—	木綿 *調査 No.25 と共裂	—	耳あり。
3	3	黒頭巾	52.5	—	—	木綿	—	細田川の和尚に使用か。
4	4-1	紫黄萌黄縞模様緋裂	258.0	34.5	—	木綿	—	耳あり。
5	4-2	紫黄萌黄縞模様緋裂	260.0	34.0	—	木綿	—	耳あり。
6	4-3	紫黄萌黄縞模様緋裂	265.0	34.0	—	木綿	—	耳あり。
7	4-4	紫黄萌黄縞模様緋裂	262.0	34.0	—	木綿	—	耳あり。
8	5	染分紗綾型菊模様裂・茶地忠臣蔵模様裂	132.0	40.0 (最大値)	—	木綿 *調査 No.21 の表地・No.19 との裏地と共裂	—	法量別途。
9	6	朱無地裂	264.0	35.0	—	木綿	—	平織でエンボスで菊模様が押されている。 片側だけ耳あり。
10	7	朱無地裂	257.0	35.0	—	木綿	—	—
11	8	紺茶白井桁格子模様細帯	289.0	10.0	—	木綿	—	—
12	9	浅黄無地裂	143.0	70.0	—	レーヨン	—	—
13	10-1	紐	251.0	—	—	木綿	—	—
14	10-2	紐	228.5	—	—	木綿	—	—
15	10-3	紐	196.0	—	—	木綿	—	—
16	11	袋帯（薄紫無地／山吹無地）	358.0	31.0	—	絹（縹子）	絹（縹子）	表地：青笹模様縹子。 裏地：山吹菊模様縹子。
17	12	紺無地僧衣か	143.0	76.5 67.5 (全長 126.0)	—	絹	—	—
18	13	薄黄地半襦袢	73.0	62.0	単	木綿	—	身頃は別裂（麻の葉模様）紅板締め（型 幅 22.0 cm）、衿（紺地縹子）あり。
19	14	薄黄地半襦袢	75.0	62.0	単	木綿	—	身頃は別裂（渦巻模様）紅板締め（型幅 23.0 cm）、衿（紺地縹子）あり、袖は裂。
20	15	白地上衣	90.5	63.5	単	木綿	—	丸印、墨摺、朱印、墨書「加山松蔵」あり。 「三番叟」で用いたか。
21	16	青地格子模様着物	123.0 (衿 1.0)	62.5	衿	木綿	木綿	リバーシブル。 裏地：緑地扇面模様。
22	17	青地格子模様着物	104.0	55.0	衿	木綿 *調査 No.16 と共裂	木綿	腰上げ・肩上げあり。 リバーシブル。 衿・裏地：茶地菊桐唐草模様。
23	18	黄緑地菊桐唐草模様着物	130.0 (衿 1.0)	64.0	衿	木綿	木綿	右のみ肩上げあり。 リバーシブル。 裏地：濃茶無地。
24	19	茶地黄白格子模様着物	121.0 (衿 1.5)	65.0	衿	木綿 *調査 No.10-2と共裂	木綿 *調査 No.5と 共裂	リバーシブル。 裏地：茶地忠臣蔵模様。
25	20	染分縞菊模様振袖	135.0	64.0	衿	木綿	木綿	裏地：赤無地。
26	21	染分紗綾形菊模様振袖	133.5	64.0	衿	木綿 *調査 No. 5と 共裂	木綿	裏地：赤無地。
27	22	桃色地半襦袢（振袖）	72.5	66.0	単	木綿 *調査 No.23 見頃と共布	—	身頃は別裂（赤地梅欄間笹模様）紅板締 め（型幅 23.0 cm）、掛襟（青地縹子）。
28	23	黄色地半襦袢（振袖）	71.0	63.5	単	木綿 *調査 No.22 見頃と共裂	—	身頃は別裂（赤地梅欄間笹模様）紅板締 め（型幅 23.0 cm）、掛襟（赤地花模様毛 織物）、No.22 と共裂、袖は裂。
29	24	茶黄縞緋模様着物	129.5 (衿 1.2)	63.0	衿	木綿	木綿	リバーシブル。 裏地：茶地格子横縞印籠刀浪人笠模様。
30	25	黄紫地格子模様着物	121.5 (衿 1.5)	61.0	衿	木綿 *調査 No. 2と 共裂	木綿	リバーシブル。 裏地：黄緑地実葉札模様。
31	26	染分花模様振袖	134.0 (衿 1.0- 1.3)	60.5	衿	木綿	木綿	型友禪、裏地：赤無地。
32	27	赤地半襦袢	54.5	51.0	単	木綿	—	身頃は別裂（白無地）衿・背に墨書「南無 大悲々観世音」あり。
33	28	薄黄地半襦袢	68.0	64.5	単	木綿	—	身頃は別裂（赤地桜模様半襦袢）掛衿（青 地縹子）。
34	29	山吹地唐花模様袴	89.0	—	単	木綿	—	

35	30	黒黄地線緋緋縞模様袴	76.5	—	単	木綿	—	
36	31	水浅黄地小紋袴	70.0	—	単	麻	—	六つ星紋あり。 調査追加 No.10 の袴。
37	32	黒地羽織	93.5	63.0	袷	木綿	木綿	裏地：茶地変格子（離井桁）模様。
38	33	黒無地僧衣か	計測不可	計測不可	単	絹	—	—
39	追加1	薄茶地迦陵頻伽桜松菊流水模様打掛	170.0 (裨6.0)	61.0 (裨1.0)	袷	絹（縮緬）	絹（平絹）	綿入り。 技法：友禪、摺匹田、描絵、刺繍。 御所解か。
40	追加2	薄茶地松竹梅裾模様着物	144.0 (裨4.0)	63.0	袷	絹（縮緬）	絹（平絹）	綿入り、三つ紋（丸に松皮菱）あり。
41	追加3	浅黄地鶴松牡丹菊模様着物	149.0 (裨5.0)	62.5 (裨1.0)	袷	絹（縮緬）	絹（平絹）	綿入り、腰上げあり、三つ紋、技法：友禪、刺繍
42	追加4	薄藍地松鶴波模様打掛	148.0 (裨6.0)	62.0 (裨1.0)	袷	絹（縮緬）	絹（平絹）	三つ紋あり。 技法：友禪、刺繍
43	追加5	水浅黄地鶴亀鶏模様打掛	161.0 (裨7.0)	62.0 (裨1.5)	袷	絹（縮緬）	絹（平絹）	綿入り、三つ紋、技法：友禪、刺繍 裾の仕立てが変わっている。
44	追加6	紫地藤模様銘仙着物	108.0	56.0	袷	絹	木綿	肩上げ、腰上げあり。
45	追加7	黄緑地菊桐唐草模様着物	132.0 (裨2.0)	63.5 (裨0.5)	袷	木綿 *調査 No.18 と共裂	木綿	三つ紋あり。 人形仕立て。
46	追加8	黒無地着物	138.0 (裨1.0)	65.0 (裨0.3)	袷	木綿	木綿	—
47	追加9	緑茶格子模様着物	127.0 (裨1.0)	62.0	袷	木綿	木綿	リバーシブル。 裏地：青茶地斜格子キリム模様。
48	追加10	水浅黄地小紋袴（上衣）	57.0	37.0	単	麻 *調査 No.31 と共裂	—	六つ星紋あり。 調査 No.31 の上衣。
49	追加11	薄紅地器物模様帯	328.0	14.0	—	毛	—	—
50	追加12	染分藤模様帯	160.0	15.0	—	毛	—	—
51	追加13-1	紺茶白井桁格子模様帯	290.0	9.5	—	木綿 *調査 No.8 と 共裂	—	—
52	追加13-2	紺茶白井桁格子模様帯	292.0	10.0	—	木綿 *調査 No.8 と 共裂	—	—



作品 No. 18 薄黄地半襦袢（表面）



作品 No. 1 海松色小桜模様着物（背面）



作品 No. 20 白地上衣（背面）



作品 No. 20 白地上衣（表面）



作品 No. 23 黄緑地菊桐唐草模様着物（表面）



作品 No. 22 青地格子模様着物（表面）



作品 No. 24 茶地黄白格子模様着物（表面）



作品 No. 23 黄緑地菊桐唐草模様着物（裏地）



作品 No. 25 染分縞菊模様振袖（背面）



作品 No. 24 茶地黄白格子模様着物（裏地）



作品 No. 27 桃色地半襦袢（振袖）（表面）



作品 No. 26 染分紗綾形菊模様振袖（背面）



作品 No. 29 茶黄縞緋模様着物（裏地）



作品 No. 29 茶黄縞緋模様着物（表面）



作品 No. 30 黄紫地格子模様着物（裏地）



作品 No. 30 黄紫地格子模様着物（背面）



作品 No. 32 赤地半襦袢（表面）



作品 No. 31 染分花模様振袖（背面）



作品 No. 33 薄黄地半襦袢（表面）



作品 No. 32 赤地半襦袢（背面）



作品 No. 36 水浅黄地小紋袴 (表面)



作品 No. 34 山吹地唐花模様袴 (表面)



作品 No. 39 薄茶地迦陵頻伽桜松菊流水模様打掛 (背面)



作品 No. 37 黒地羽織 (表面)



作品 No. 41 浅黄地鶴松牡丹菊模様着物 (背面)



作品 No. 40 薄茶地松竹梅裾模様着物 (背面)



作品 No. 43 水浅黄地鶴亀鶏模様打掛 (背面)



作品 No. 42 薄藍地松鶴波模様打掛 (背面)



作品 No. 45 黄緑地菊桐唐草模様着物（表面）



作品 No. 44 紫地藤模様銘仙着物（表面）



作品 No. 46 黒無地着物（背面）



作品 No. 45 黄緑地菊桐唐草模様着物（裏地）



作品 No. 47 緑茶格子模様着物（裏地）



作品 No. 47 緑茶格子模様着物（表面）



作品 No. 51 紺茶白井桁格子模様帯（表面）



作品 No. 48 水浅黄地小紋袴（上衣）（表面）

6 戸川の飴屋踊り

表6 戸川の飴屋踊り

調査日：令和5（2023）年12月21日

作品 No	調査 No	名称	法量（cm） 身丈／長さ	法量（cm） 桁／幅	袷・単	表地	裏地	演目・役	現行	備考
1	1	白地扇面模様浴衣	138.0	65.0	単	木綿	—	飴屋踊	○	腰上げあり。 既製品（タグあり）、プリント。 市内の和田呉服店で20年前頃に 購入。 サイズは規定サイズで発注。
2	2	白地扇面散模様浴衣	145.0	65.0	単	木綿	—	飴屋踊 / ささら踊	○	注染。 大沢豊子氏から譲り受けたもの。
3	3	白地扇面散文字 模様浴衣	139.0	66.0	単	木綿	—	ささら踊	○	国庫補助を受けて製作。 腰上げあり、注染。
4	4	白地撫子模様浴衣	147.0	63.0	単	木綿	—	—	—	腰上げあり、注染。 所有者の母親が縫製。 （通称：〈秦野〉市の浴衣）
5	5	腰巻	96.0	130.0	—	—	—	—	○	既製品。
6	6	腰巻	90.0	122.0	—	—	—	—	○	自作。
7	7	昼夜帯（半巾帯）（黒 地紗綾型模様金襴／黄 緑地唐草模様金襴）	352.0	14.5	—	化学繊維	—	—	○	結び方はハの字。 大沢豊子氏から譲り受けたもの。
8	8	赤地襷	378.0	23.0	—	木綿	—	—	○	10年位前に製作。昔はピンクを使 っていた。サイズもばらばらだった が統一。反幅を3つに分けて、裁 ち目も縫ってもらった。



作品 No. 1 白地扇面模様浴衣（背面）



作品 No. 1 白地扇面模様浴衣（表面）



作品 No. 3 白地扇面散文字模様浴衣（表面）



作品 No. 2 白地扇面散模様浴衣（表面）



作品 No. 4 白地撫子模様浴衣（背面）



作品 No. 4 白地撫子模様浴衣（表面）



作品 No. 7 昼夜帯（半巾帯）
（黒地紗綾型模様金欄）



作品 No. 7 昼夜帯（半巾帯）
（黄緑地唐草模様金欄）

凡例、用語解説

第三章中の一覧表内で用いた項目について左記に示す。なお、【 】内は各表の項目と対照している。

【名称】

着物…洋服に対して和服の意味に用いられているが、本来は着るものの意。

和服の中でも羽織やコート、襦袢などと区別して長着形式を指して着物という。

振袖…ふりそで 女兒と未婚の女性が着る袖の長い着物。袖の長さにより本振袖（大振袖）と、中振袖、小振袖がある。

襦袢…じゆばん 和服用の肌着。身体の上半分の丈のものを半襦袢といい、裾まであるものを長襦袢という。長襦袢の下に着る木綿の単仕立のものを肌襦袢と呼ぶ。

袴…はかま 上下二部からなる服装のうち、下半身に両足を別々に通してつける衣。

腰から足までを覆うゆつたりとした下半身衣。多くは両足の部分が分かれ、上部についた紐を結んで着用する。主な種類に長袴・半袴・平袴・野袴・馬乗袴・四幅袴などのほか、働き着の山袴がある。

羽織…はおり 着物（長着）の上にはおつて着る襟を折り返した短い丈の衣服。衽に相当する部分はなく、衿のあきから真つすぐに裁ち落として衿がつく。脇に襷を入れて見幅にゆとりをもたせ胸元で羽織ひもを結び着用する。

烏帽子…えぼし 烏色（黒色）の帽子の意。

帯…おび 衣服の腰部を巻いて結ぶある程度の幅をもった紐状のもので、衣服を固定するため、あるいは装飾に用いる。

しごき帯…一幅の布を並幅のまま縫わずにしごいて締める帯。

昼夜帯…ちゆうやおび 単帯に対して裏表二重になった袷帯でこの中でも表裏に二種の異なった裂地を縫い合わせて作った帯。

襦袢…広袖仕立ての長着で綿を多く入れたもの。冬の部屋着として着られた。
腰巻…ここでの腰巻は現在の下半身に巻く肌着のこと。洗濯しやすい木綿

を横布に使って仕立て、両端に紐を縫い付けて胴に巻いて締める。

袴…江戸時代の武士の衣服。小袖に肩衣という上半身に着る袖のない単

仕立の衣服と袴を組み合わせて着用する。その多くは肩衣と袴を共布で仕

立て、肩衣の背と前左右、袴の腰板の四箇所紋をつけた。格式により長袴・

半袴・継袴の種類がある。

脚絆…脛から下を覆い保護するもの。

袷袢…僧侶が着用する法服の一種。衣の上に左肩から右脇へかけまとう衣服。

掛絡…禅宗・浄土宗の僧が用いる、方形の小さな略式の袷袢。両肩から

胸の前に垂れるように身に着ける。

【法量（寸法）】

衤…衤または綿入れの衣装の袖口および裾の縁で裏布が表布よりもはみ出した形に仕上げられている部分をいう。打掛などの衤は綿を厚く入れ色彩的効果と共に裾をひいた時の重量感を出し、着用美の重要な役割を果たす。

本表内の（衤一〇）等の数値は、身丈の数値には含まれていない。

なお、菊名のあめや踊りの法量の数値は保存会より提供いただいた。

【衤・単】

衤は裏をつけて仕立てた衣の総称。それに対して裏を付けずに仕立てた衣を単（単仕立）という。

【表地・裏地】

緑の網かけの作品は、サンプリングを行い、東京文化財研究所保存科学研究所センター西田典由主任研究員の協力のもと、顕微鏡と赤外分光光度計分析による分析繊維同定を行った。

【演目・役／現行】

各保存会の調査時の聞き取りをもとに記した。

現行欄の△は、適宜着用するものや揃いとして保存会で管理しているものを含む。なお、小黒万作と下宮田館屋踊りに関しては、現在活動していないため、本調査項目は省略した。

【備考】

腰上げ…腰の位置で丈を調節するために飾りもかねて表からつまみ縫いをすることをいう。子どもは成長が早いので全体に大きく着物を仕立てておいて肩上げと腰上げで衤と丈を調節しながら長い期間着られるように工夫した。

肩上げ…子どもの着物の衤を調節するために肩山を中心として前身頃から後

身頃へかけてつまみ縫いあげること。

掛衤…長着や襦袢、夜着などの地の衤の上に掛ける衤。衤は首筋にあたる

ために擦り切れたり汚れたりしやすいので補強のためや装飾目的のために行った。

衤子…経糸で地を緯糸で地紋を織り出した絹織物。

天鷲絨…ベルベットとも呼ぶ。布の表面が毛羽や輪奈で覆われた織物の総

称。縦あるいは横に針金を織り込み、製織後に輪奈をそのままにして針金を抜き取ったもの。または輪奈を切って毛を立たせたもの。

参考文献

服装文化協会編 一九九〇『服装大百科事典』文化出版局
板倉寿郎監修 一九七七『原色染織大辞典』淡交社

コラム2

「飴屋踊り、万作踊り」衣装調査から考える無形情報の

役割 — 衣装調査項目の検討を通じて —

菊池理予（東京文化財研究所

無形文化遺産部主任研究員）

はじめに

令和四（二〇二二）年、神奈川県「飴屋踊り、万作踊り」調査事業が開始され、衣装調査を担当することとなった。調査対象は、小黒万作、土橋の万作踊り、長井町飴屋踊、菊名のあめや踊り、下宮田の飴屋踊り、戸川の飴屋踊りの六件である。これらのうち、現在でも公演等の活動が続けているのは土橋の万作踊り、長井町飴屋踊、菊名のあめや踊り、戸川の飴屋踊りの四件、小黒万作、下宮田の飴屋踊りの二件では衣装・道具類が保管されているが、それらを使用した公演等は行われていない。本稿では、「使用者」からの無形の情報に注目して、それらの情報が果たす役割について考察する。

1 染織品（有形文化財）調査における一般的な調査項目

一般的に染織品を調査する場合、目的によって調査項目が決定される。保存（作品収蔵等）、修理（修理設計と処置を判断するための情報）、研究（作品研究）等の目的に沿って、調査する項目の詳細や、どのような機材を選

択するのも変わってくる。調査項目については、所蔵者、調査関係者と綿密な協議を行い、調査項目を決定することが重要である。

一般的な調査項目は、名称、員数、法量、生地、仕立て、加飾技法、仕立て替えの有無、所蔵者の情報、時代について調査を行い記録する。

これらのうち、法量は染織品種別ごとに計測項目が異なる。例えば、上衣や下衣、四角い形状の打敷や敷物等はそれぞれ計測箇所も異なる。特に、上衣や下衣の場合には身丈や衿の長さ、腰回りなどから着用者が同一であるか、着用者が大人であるか子どもであるのかなども推測できる情報となる。

生地については、用いられる繊維、糸の状態、生地を構成する織組織を確認して生地の種別を特定していく。加飾技法も、生地に施されたそれぞれの技法（友禅、刺繍、絞り、摺箔、^{すりびた}摺匹田、描絵、型染め、白上げ等）について調査を行う。これらを調査する中で、仕立て替えの有無や縫い跡や汚れ、しわ等の状態を観察して確認する。

さらに、現在の所蔵者の情報に加えて、来歴（使用歴、所蔵歴）についても調査を行う。来歴のない場合には作品から得られた情報を総合的に判断しておおよその時代（鎌倉時代、室町時代、江戸時代等）についても記載するが、来歴がある場合には、作品から得られた情報に加えて来歴の情報を加味して時代を判断する。

2 本調査における調査項目

本調査においては、各飴屋踊り、万作踊りの保存会が所蔵している作品について保存会及び各市の文化財所管課担当職員立会いのもとで調査を行い、調査項目に関しては神奈川県担当者と協議のうえで設定した。

調査対象のうち、現在では公演等の活動は行われていないが、衣装・道具類が保存されていた小黒万作、下宮田の飴屋踊りの二件、公演等の活動を行っている土橋の万作踊り、長井町飴屋踊、菊名のあめや踊り、戸川の飴屋踊りの四件では、調査項目が異なる結果となった。それは、現在も公演等の活動がある四件については、着装の情報や、どこでいつ購入したのかという調査の情報、さらには着丈や衿の長さを調整する肩上げや腰上げなどの補修や調整等の情報を得ることができたからである。また、活動の中には「段物（芝居）」のための衣装と、「手踊り」の衣装があるが、役柄のある「段物」の衣装については特に情報を多く得ることができた。

（1）衣装や道具のみが残されている民俗芸能衣装の調査項目

衣装や道具のみが残されている小黒万作、下宮田の飴屋踊りについては、従来の染織品の調査項目を参考に以下の項目について調査し、記録した。

①名称

それぞれの衣装には保存会での名称はつけられていなかったため、本調査によって新たに名称をつけた。

②法量

上衣は着丈と衿、下衣は腰幅と丈、帯は長さとしを採寸した。

③生地（表地、裏地）

基本的には目視で繊維を判断し、剥落やサンプリングで提供された繊維については赤外分光光度計による分析・顕微鏡観察による繊維鑑別を行った。

④備考

員数は揃いのあるものや、仕立てや技法、家紋等についても備考欄に記載した。

今回調査した中で印象的であったのが、小黒万作、下宮田の飴屋踊りの

両者にリバーシブルの衣装が所蔵されていたことである。小黒万作の紺茶縞模様着物（作品N o. 2、調査N o. 2）、赤地秋草垣模様振袖（作品N o. 3、調査N o. 3）、茶萌黄格子模様着物（作品N o. 8、調査N o. 8）、紺無地三つ紋着物（作品N o. 14、調査N o. 14）、そして下宮田の飴屋踊りの青地格子模様着物（作品N o. 21、調査N o. 16）、青地格子模様着物（作品N o. 22、調査N o. 17）、黄緑地菊桐唐草模様着物（作品N o. 23、調査N o. 18）、茶地黄白格子模様着物（作品N o. 24、調査N o. 19）（写真1）、茶黄縞縹模様着物（作品N o. 29、調査N o. 24）、黄紫地格子模様着物（作品N o. 30、調査N o. 25）、緑茶格子模様着物（作品N o. 47、調査追加N o. 9）はリバーシブルの構造となっていた。表面は派手な柄の生地が用いられているが、裏面は地味な単色で貼紋（石餅紋や変武田菱の三ツ紋等）が施されているものもあった。裏面に紋を配するリバーシブルの着物は、日常に用いられる着物では管見の限りみられないため、民俗芸能衣装として、演目に合わせて使うために製作されたものであろうと推測できる。下宮田の飴屋踊りには昭和五〇（一九七五）年に三浦市に寄贈された際に作成されたリスト（写真2）が所蔵されている。寄贈時のリストと今回調査した作品の比較検討を行ったが、寄贈されたリストの記載と具体的な衣装を照合することは困難であった。ここからは、記録する上ではその内容が非常に重要であり、記録した内容がどの作品を示しているかを明確にすることが重要だといえる。

また、小黒万作には衣装に墨書があるものがあり、浅黄小紋袴の肩衣（作品N o. 16、調査N o. 16―1）には「小川藤吉之寄付」、袴（作品N o. 17、調査N o. 16―2）にも「下澁谷羽根澤小川藤吉之寄附」（写真3）

と記されていた。ここからは、同衽がどの地域の誰から小黒万作に所蔵されるようになったかを推測することができ、このような情報も貴重である。



写真1 茶地黄白格子模様着物
右、表面 左、裏地

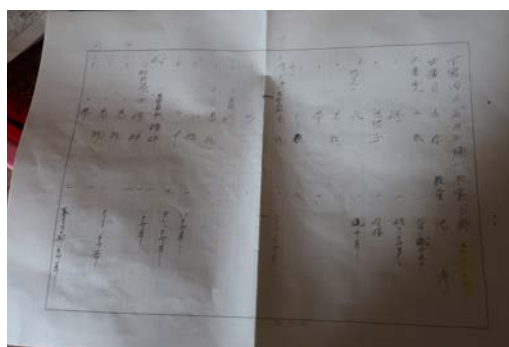


写真2 三浦市教育委員会収蔵庫台帳

(2) 公演等の活動がある民俗芸能衣装の調査項目

現在も保存会が活動している土橋の万作踊り、長井町飴屋踊、菊名のあめや踊り、戸川の飴屋踊りの四件については2(1)①④の項目に加え、どのような演目のどのような役に使用したのかという⑤着装の情報を得ることができた。

土橋の万作踊りでは「芝山内」、「勝五郎箱根山」、「大津絵」、長井町飴屋踊では、「三番叟」、「ねんねこ」、「白枳粉屋」、「新川」、「笠松峠」、「日蓮経」、「細田」、菊名のあめや踊りでは「白松粉屋」、「笠松峠」、「新川」、「子守」、「かきがら」、「五段目」、「細田」の衣装が所蔵されている。

例えば、菊名のあめや踊りの「笠松峠」の仙太郎という役では、大人と子どもが演じる場合があり、白茶地モザイク模様裁付袴（作品No. 87、調査No. 25-1）は大人用とされ、黄土色地市松裁付袴（作品No. 88、調査No. 25-2）、薄茶地楊柳模様裁付袴（作品No. 89、調査No. 25-3）は子どもが使用するというように使い分けられていた。

また、④備考欄には、それらの衣装を、いつ、どこで購入したのかとい



写真3 墨書

「下澁谷羽根澤小川藤吉之寄附」

う情報や、着丈や衿の長さを調整する肩上げや腰上げなどの情報も得ることができた。

例えば、長井町飴屋踊では、「笠松峠」の仙太郎の衣装は緑赤茶格子模様着物（作品N o. 41、調査N o. 6―2）、茶地細縞模様着物（作品N o. 42、調査N o. 6―3）があり、身丈と衿の長さは茶地細縞模様着物（作品N o. 42、調査N o. 6―3）のほうが二〇センチメートルほど長く、演じ手の体型に合わせて調整されていることが分かる。また、白枳粉屋で用される薄黄地縞模様襦袍（作品N o. 27、28、調査N o. 4―4、4―5）は同じものが二領ある。そのうち、薄黄地縞模様襦袍（作品N o. 27、調査N o. 4―4）は肩上げのみがされており、薄黄地縞模様襦袍（作品N o. 28、調査N o. 4―5）は肩上げと腰上げの両方がされており、こちらも演じ手の身長に合わせて衣装を調整していることが理解できる。

このように衣装の大きさを調整することは新調する段階からも考慮されており、菊名のあめや踊りでは、「新川」や「かきがら」で使用する紺地波模様着物（作品N o. 41、調査N o. 9―1）は二反の反物から、中サイズ一領、小サイズ二領のサイズ違いのものを作っており、既成サイズで合わないものについては、肩上げ、腰上げをして演じ手によって身丈と衿の長さを調整していた。

戸川の飴屋踊りでも、白地扇面模様浴衣（作品N o. 1、調査N o. 1）はレクリエーション協会の人のつながりで、和田呉服店（現在も営業）で二〇年程前に購入しており、購入サイズは採寸して作るというより、S M Lのような既定サイズで作った記憶があるという。

このように、公演等を現在でも行っている四団体の衣装については、その衣装をどのように購入したのか、使用したのかという、衣装をとりまく「無

形」の情報を得ることができた。

3 民俗芸能衣装調査における無形の情報が果たす役割

昭和一二（一九三七）年、『民具問答集』アチックミュージ엄ノート第1輯が刊行された。同書には民具蒐集の際にも研究の際にも「先方に聞きたことについて第一の資料とする」という考え方のもとで、使用頻度やどんな時にどのように使用するのか等の蒐集や調査に欠かせない質問項目が記されている。酒井和男氏によれば、民具の調査には聞き取りと観察の方法があり、聞き取り調査によって民具に伝承を紐づけることは、民具の資料的価値を高めることだと指摘している「岩井編ほか 一九八五 九八」。そのため所有者や関係者から調査対象である民具に対してのどのような質問項目をもつて情報を得るのかについては、アチックミュージ엄による『民具蒐集調査項目』発表以来、試行錯誤がされてきた「岩井編ほか 一九八五 九七」。

このような調査対象、収集対象である民具に対して、当該民具の観察による（物質的な）情報、さらに所蔵者や関係者による聞き取りによる情報は、モノ情報とコト情報とも言われている「今石 二〇二四 九五」。モノ情報というのは物質的な情報、例えば、形態や構造、寸法を指し、コト情報とはその民具の背景にある民俗誌的な情報を指す。民具の価値判断は、その民具を何に使うのか、どのように使うのか、何と呼ばれてきたのか、どういう範囲（地域）で使われてきたのか、そのような情報が加わり初めて判断ができる。民具の分野では、モノ情報にコト情報が加わり初めて価値がわかるものだと考えられている。また、コト情報が付随していない場合は、聞き取り調査や文献調査、近隣地域の民具との比較の中で改めて補っていかなければならない、本来ならば収集の時に集めておきたい情報だと指摘されている。

このコト情報が重要という考えは民俗芸能の衣装にとっても重要な視点といえる。芸能衣装は演じるための着装に欠かせぬもので、どのような演目で、どのような役で、どのように着装するかが重要である。能における装束附のように、その着装により意味を持つことがある「西野、羽田編 一九九九 三五一―三五四」。もちろん小物などによっても特別な意味を持つものもある。これは民俗芸能でも同様であろう。

だからこそ、公演の記録を行う際には、何の衣装をどのような組み合わせで、どのように着装したのかという記録をとることが重要である。また、衣装を新調する際には、どのような経緯で新調することになったのか、どの場所のどのようなお店にどのように注文をしたのかについても記録をとる必要がある。

そして、新調した場合や寄贈等によって保存会で所蔵するようになった段階から、衣装それぞれのカルテを作成することが望ましい。そこには、病院のカルテのように肩上げや腰上げ、破損箇所を修理する際にはそれぞれの衣装の調書にいつどのような処置をしたのかを記入していくことで、衣装の評価が変わってくるのである。民俗芸能は継承していく間に芸能も変化していると考えられるが、民俗衣装もそれに伴って様々な調整を行いながら使用されている。そのような装束にまつわる変化を記録していくことは当該民俗芸能全体の変化を記録するという点でも欠かせない情報となるであろう。

しかしながら、これらを所蔵者や保存会で行うことは大変な労力である。そこには、行政や研究者も関わりながら、民俗芸能衣装の調査を行う体制づくりが必要となってくるのではないだろうか。

おわりに

これまで、染織品の調査は近世や近代（戦前）が中心であるため、モノ情報を中心として、絵画資料や文献調査、そのほかの類似の作品からそれらとの比較を通じて作品の情報を補完し、時代考証や作品評価を行うしか方法が無かった。そのような調査の中では本調査で行った使用者から情報を得ることとは困難である。もし、これらの作品に詳細なコト情報が記録されていたら、後世において、それらの情報は非常に意義のあるものとなり、その作品の評価をより正確に行うことができるであろう。それは、衣装に墨書が残されている小黒万作の事例からも、墨書の情報によって衣装の意味づけや評価が変わっていることは明らかである。

だからこそ、使用者がいる段階で衣装に付随する多くの無形の情報を得て記録することが大切である。衣装から得られる「モノ情報」にそれらの無形の「コト情報」を追加することで、その衣装の民俗芸能の中での役割が明らかになってくるのではないだろうか。

参考文献

- 岩井編、ほか 一九八五 『民具調査ハンドブック』 雄山閣
西野春雄、羽田昶編 一九九九 『新訂増補 能・狂言辞典』 平凡社
今石みぎわ 二〇二四 「民具を継承する 安易な廃棄を防ぐために」『第18回無形民俗文化財研究協議会報告』独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部

（菊池理予）